

議論メモ（岡山の短期計画）

・データ公開ポリシーについて

西浦： プロジェクト観測的なデータは特別扱いすることはなかったか？ データの一部を公開して、その後さらにヘッダーを公開することになったのはどのような理由からなのか？

吉田： プロジェクト観測だから一律に公開までの期間を長くするということはしていない。個別の協議により長くすることは不可能ではない。早く公開しなければ使ってくれないという意見と、長く占有したいという意見の妥協点だと認識している。

川端： 論文が出た時期と観測が行われた時期との関係についてデータはあるのか？

吉田： 柳澤氏が数年前に調べた。

柳澤： 最初の観測から1.5年以内論文になる割合が60数%であった。

吉田： 反対意見もないので、この案で承認されたと判断する。

・ToOについて

太田： ϵ Aur はToOなのか？食がこの時期に起こることは分かっていたことなのではないか？今年当たると思えば、プロポーザルを出せば良いのではないか。

吉田： 大体の期間は分かっているが、完全には分からない。そういう意味では、ToOではないかもしれないが、突発現象ではないか。従来の共同利用申請では申請しにくい観測形態なので、ToO的な申請をしたのだと思う。今までは、所長預かりの時間があった。

川端： プロポーザルを書いて採択された人たちがいることを考えると、報告義務などを設けるべきなのではないか。そうしないとプロポーザルを書かなくても観測時間を得られる抜け道となってしまう恐れがある。

吉田： 案1は上限がないので、どこで線を引くかが難しい。案1と3の違いは、3だと条件を設けて枠から外れると受け付けなくなる。共同利用でまばらに観測時間を申請する枠を新たに設けるという方法もあるかもしれない。

川端： ToOの観測は共同利用で来ている人がやるのか、それとも観測所の人やるのか？

吉田： 共同利用の人に観測してもらう。ToOの申請者と共同利用で来ている人が共同研究者である場合が多いので、実情は共同利用で来ている人がやっている。

川端： まったく知らない人の提案だとやはり難しいのではないか。案3なら、時間の短い観測のプロポーザルも受け付けて、観測所の人がサービス観測的にやると生産効率が上がるだろう。

吉田： 確かにサービス観測をすれば良いと思うが、マンパワーがないので実行するのは難しい。

野上： こういった観測は、中小口径望遠鏡のこれからの柱となると思っている。今回申請されたToOうち2の方の共同研究者となっている。ToOで使った時間に対して、別課題で割り振られていた時間から補填することで、観測者に了承してもらった。ToO観測はこれからいろいろ出てくると思うので、だんだん議論して良い方法を見つけていくという形にならざるを得ないと思うが、難しく固定的に考えると成果が出にくくなるのではないか？フレキシブルに対応できるように、是非、案3の方向で考えて欲しい。

大杉： ToO観測に関して広島大学は、柔軟に対応すること目的にしてきた。今後もそのつもりで、一定時間を割り当てる準備がある。観測装置の制限や誰が観測するか問題はあるが、突発天体、緊急かつモニターの観測も毎晩やっている。かなた望遠鏡を使うことも合わせて議論して欲しい。

安藤： 2時間を超えるような長時間になると、補填をして欲しいというユーザーは絶対出てくる。プロポーザルが採択されて得ることができた観測時間なので、そのようなユーザーの心理を理解しなければ、拒否する人も出てくるかもしれない。時間の補填をしなければうまくいかないだろう。

太田： いくつかの問題が複合しているような気がする。 ϵ Aurの場合は、新型（ToOというよりは短期モニター観測）のプロポーザルを受け付けるかどうかの問題である。激変星などは、何か起こると申し込みが大量に出てきそう。すばるなどでは、半期のうちに1回か2回は必ずでると思われるものは、ToOプロポーザルとして出せる。案1や案3のやり方で、GRBなどは年間何個か3夜くらい観測を行っている。それ以外に、まったく予想もできなかった現象を急遽やりたい場合もある。問題によって対応のしかたを換えるということもありえる。

佐藤： ToO観測を依頼されると、どうしても条件の良い日にやる。晴れていれば、自身の観測したいので、時間を決めてもらった方が、判断に困らない。個人の裁量で晴れた日という条件であれば、補填は必要という気がする。

吉田： その問題はToOには必ずつきまとうことで、ToO観測は晴れた日に行われるが、補填したときは必ずしも晴れるとは限らないという不公平はある。この場の議論だけで決まるわけではなくて、プロ小でも議論してつめていこうと考えている。